

行動障害

～本人の主張その8～

私たちは、絶えず何らかの選択をしながら生きています。いつも合理的で目的にあった選択をしながら生きて満足だという方があれば、よほど優れた人であるか運のいい人です。これでもかとさまざまな困難に遭遇するのが常ではないでしょうか。そのような、生きていく上で経験する破局の予感を不安といいますが、この予感は現実的で明確ではないものも多く、不安への防衛が時として場にそぐわない適応障害となり激しくなるにつれて行動障害といわれるものになります。知的に障がいがある場合、重度であれば体調の変化やものの位置が変わるような小さな変化もすべてが変わってしまう「破局」として捉えがちで、変化の大きい地域社会環境への適応には年月を要してしまいます。さらに辛いことに、支援する側は目の前の興奮状態化した不適応行動に対応を迫られ、最も大切な「不安の根源」との対峙どころではなくなってしまいます。

④疾病への逃避 人間の持っている大切な機能を停止させたり、既にもっている機能障害を増幅させ、適応が困難であることをアピールし、安定しようとする。(ヒステリー性の発作、失声、歩行不能、性的不感症などであるが、同情を得る事によって本人に利益があり一時的に心が安らぐ)

(2) 防衛的攻撃
例えば、「劣等感を感じないように先に相手を威嚇・攻撃する」「相手の弱点を探して非難する」「病弱な子供が動物をいじめめる」「臆病な子供が目下の家族に暴君である」「家庭内・家族間の不安感から周囲に患者をつくる」など

(3) 抑圧
一時的に封じ込める。解消されていないので増幅される危険がある。

(4) 置き換え
抑圧された感情を他の無害な対象に置き換える。スポーツや芸術など社会的に承認された行動に結実したものを昇華という。

(5) 取り入れ
周囲に期待される行動を知らず知らずに入れられる。自分の欲求をコントロールするという社会的適応の根源がここにある。「信頼関係を深めながらしつけをする・生活規範を身につける」という、まさに家庭や入所施設の役割がここにある。

(6) 投射
自分の中にある要求を自分以外の人やものに帰し、責任を投射する。妄想などがそうであり、被害妄想はさらに攻撃的投射。

(7) 退行
いわゆる「赤ちゃんがえり」。成人でも見られ、わずかなことでも激怒したり、暴力を振るったり、泣き喚いて興奮したりする。

(8) 理屈づけなど
もっともらしい理由を言って逃れようとするなど。

防衛反応 破局への予感に伴う人間の反応として次のようなものが挙げられる。
(参考資料 渡辺映子著 精神薄弱心理学)

1. 生理的な防衛反応

動悸、胸部の異常感、頭重感、冷汗、皮膚の蒼白、筋肉の弛緩(時として失禁)、不安神経症

2. 防衛機制

(1) 逃避

- ①退避 自発的な行動ができなくなる。閉じこもる。
- ②空想への逃避 進行すると現実と空想が混同してくる
- ③現実への逃避 趣味や娯楽は空想への逃避との両面を持つが、落ち着きなく歩き回ったり身体を絶えずゆする(自閉症の方にしばしば見られる常同行動)などの関係のない現実行動に集中することによって不安を消す。また、自傷行為も「痛み」という現実に集中することによって不安から逃避すると考えられるのではないだろうか。いずれにしろ極端になると制御が困難な一種の興奮状態・躁状態となる。

～お礼～

■ワタキューセイモア株式会社様
タオル結束機～便利で助かっています。



■ごうぎん一粒の麦の会(山陰合同銀行役職員2200名会員)様
地上デジタル波対応液晶テレビ

■L.C.C.ういんぐ保護者会様 掛け時計
■持田寮保護者会様 掛け時計

そのほかたくさんの方々より頂戴ものをいただきました。お名前の掲載は控えさせていただきますが、心よりお礼を申し上げます。

募集

千鳥福祉会後援会に加入いただく方を募集しております。
主な活動は夏祭りの開催ですが、いっしょに誰もが安心して暮らせる地域づくりを考えて見ませんか!

個人会員様年会費 1口 1,000円
団体会員様年会費 1口 10,000円

連絡先 事務局: TEL0852-24-8820
(担当川岡まで)

編集後記

春は蝶のように舞い
夏はせみのように鳴き
秋は焼き芋のように暖かく
冬は芋虫のように寄り添って
むかしむかしこんな暮らしがあった
忙しくなりすぎた福祉がある
難しくなりすぎた社会がある
人の幸せとはなんだろうかと考えてしまうのは
時代から取り残されつつあるからだろうか

秋

千鳥福祉会理事長 山本昌子

いろいろにぎやかであった小泉政権も終わり、「美しい日本」をテーマに新しい内閣が発足した。福祉はいつも政治経済の動向に翻弄されてきた歴史があり、これからも政治や経済の動向から目が離せない。

離さずに見ているのだけれども・・・情報はあふれるほどにあるのだけれども・・・問題点を暗にほめかすだけの情報が多く、受け止める国民の側からすれば不安感だけが増幅され、「美しい日本」へのイメージにつながらない。

先ごろ、島根県の65歳以上の占める割合は全国で一番高いと報じていた。出勤間近な時にチラッと耳に入ったが、高齢化社会と聞いた時「平和な美しい日本」「福祉の行き届いた日本」「先進国に仲間入りした日本」に結びつける人があるだろうか。「介護保険財源、年金・医療等社会保障制度、税制、日本の労働人口、技術伝承、グローバルな経済と日本経済、生活保護・障害など社会的弱者救済等山積みの課

題が複雑に絡み合った社会問題」に思いが及ぶのではないか。このことは数十年の先に訪れることではなく現時点の問題として、国民が心を痛めている大きな課題でもあるだけに、単に警鐘的な取り扱いのニュースにはうんざりの感がある。取り組まれている手立てとその効果の検証結果が伝わるように工夫され、国民に解決への努力や選択を迫る報道が欲しい。何かの本で読んだ。「行政も政治も確たる策など持たないでいる。国民一人ひとりが考える時代になっている」と。また、ある友は「今の社会を創ったのは我々世代である」と。分業社会にあって、政治も困ったら投げ出すのでは困るし、社会が悪いと人の責任にしているも始まらない。苦悩があればそれも含めて丁寧な施策と検証と選択ではないかと思う。

自立支援法への移行は、4月には負担部分、10月には居宅関係からではあるが事業そのものについて始まった。台所事情の一例を話せば、入所施設で

は入院や一時帰省があると月6日分は重度の方で従来の日額の39%程度に減ったし、6日を越える部分はカットされることになった。また、通所施設は完全に日割り計算となった。施設は収入激減で悪戦苦闘し、その悲鳴が政府に届いたのか入所者数を定員の1割までは増員してよいというおかしな経過措置がとられた。経過措置はともかく、走りながら確立するというこの法制度、「自立支援法は地域をよみがえらせる比類のないすばらしい法律だ」などと誇らしげに語れない事情がある。

願いとして、「福祉は政治経済に翻弄されることなく、人の暮らしに安堵とやさしさをもたらすものであって欲しい」と皆が思っているにもかかわらず、優先するものが違ってきている。競争原理導入の本来の目的は経費節減であり、着々とその効果が上がっているということではない。

経費節減と職員確保とサービスの質維持向上の知恵が出せるだろうか。この秋は大変な秋。でも、実りの秋にしたい。

自立支援法への移行

～地域での暮らしの組み立て～

障害のある方の社会参加を実現した居宅介護事業が市町村の移動支援事業となりました。



夏祭り & 運動会

持田地区社会福祉協議会との連携を望んでおりましたが、この度、第2次持田地区地域福祉計画には障がいがあって千鳥福祉会の支援を受けている方々も地域の見守りが必要な方たちの仲間として考えていただけるようになりました。実行計画として「施設の行事等に参加ご協力」いただくことになり、夏祭りには台風直前の中地域の方を含め、3000人を越える方々が来てくださいました。また、地区運動会では地域の皆さんも一緒に踊ってくださいましたし、一部競技にも参加させていただきました。ありがとうございました。

新しく始まった障害者自立支援法は「地域」「自立」「就労」をキーワードとしています。持田寮で自立訓練等を終え、この地域で民家（グループホーム・ケアホーム）を借りて仲間と生活を始めた方たちは総勢37人（ホーム8箇所）になりました。今後とも、地域の皆様から温かい見守りとご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

1. 夏祭り 2. 持田地区運動会



3B体操のボランティアの皆さんと!



一気に盛り上がるよさこいの踊り



平成ニュータウン子供会の皆様今年もありがとうございます。



のどかな一日でした。何と云っても光と風がちがう!!

お便りをいただきました。

絵手紙

こんにちは！私は神戸に住んでいます。故郷松江を離れて35年ほどになります。年々松江のよさや懐かしさが増して来ました。同級生なので山本さんに絵手紙を送ったら、こうして皆さんのお目に触れることになりました。私は絵手紙サークルで「下手でいい。下手がいい。」という誠に都合のいい Mottoで楽しんでいます。皆様もぜひ挑戦されて、千鳥福祉会に送ってみませんか。そして友達をたくさん見つけましょうよ。墨、油性ペン、鉛筆、クレパスなどで描いて、絵の具で色をつけます。簡単なりんごやピーマンやイチゴなどから描いてみてはいかがでしょう。たくさんの方々の絵手紙が「つばき」に載るのを楽しみにしています。(小原保子)



鳥取女子短期大学実習生（抜粹）

・何とか意思を受け止めたいという気持ちを持ち、何度か意思を確かめると利用者の方が・うなずかれ、お互いに笑みがこぼれることもありました。気持ちが通じ合うことはすばらしいことであると感じました。(渡部)・利用者さんが笑顔になられると私も自然に笑顔になり、とても暖かい気持ちになると共に、ひとが忘れてはいけないことだと改めて実感しました。(宮本)・毎日が楽しくとても充実したものになりました。サマーフェスタや夏季休業中にはボランティアとしてお邪魔させていただきたいと思っています。(安達)

ワークセンターフレンド実習を終えて（抜粹）

・時分が苦手だと思っても挑戦していくことができました。仕事量がたくさんあって、どれもきりがなくて大変でしたが集中してできたのでよかったです。(出雲養護学校 森脇)・よかった事は浴衣たたみなどいろいろな事をおしえてもらった事です。できなかった事ができるようになったり、次の目標がみえてきたりして、すこし自信ついたような気がしました。(松江養護学校 山根)